

○第5回事前課題[復興ビジョン中間報告に対する意見]集約版

資料3-2

分野・ 該当ページ	内容	該当部分
除染	帰還にむけての取り組みのため早く線量マップを作り町民に提示すべき。それをもとに除染と飲料水の確保をしていく。	
除染	浪江町は放射線量で3つの区域に分けられます。特に津島は線量が高いので帰還困難区域に指定されま す。田、畑、山林の除染に30年もかかると言われているがなんとか15年か20年で早く除染して帰れるよう に出来ないでしょうか。	
賠償	一人ひとりの暮らしを取り戻すことが最優先である。また命を守ることが必要であり、安心して暮らすこと ができる住まい、生活設計を立てる上での確実な賠償は必ず必要です。何年も。	
住居集約化	津波被災地の住民で、今後漁業を営む住民以外の住民については、中期ビジョンまで待たず住民の意向 を踏まえ、居住地の整備に取り掛かってはどうか。中にはアンケート調査からも元の場所に戻らない考え の住民が多いので、早い段階で居住地の選択肢を考えてはどうか。	
住居集約化	高線量、除染技術不足により避難生活の長期化が想定されるため、旧集落単位での居住地域の集約化を 図り、仮設よりも広い住宅を整備すべき。	
区域見直し	帰還困難区域に指定された地域の住民の住まいをどうするかなど、10年間の復興計画の中に取り上げる 必要はないか。	
区域見直し	私の誇れる大堀相馬焼と高瀬川溪谷・大堀を捨てることはできないのです。区域見直しで買い上げという 国の言う通りにはなりたくないです。行政のほうからも強い後押しをお願いします。	
総論	浪江町の実力を正しく把握すべき。実現するための体制、人材、情熱、仕組み・・・現状を見ると果たして誰 が行うのか甚だ疑問。市町村連携はもとより広く全国から人材を募集し取り組む必要があると思う。	
総論	このビジョンには知りたいことが記載されていないため町民はあまり興味を示さないと思うが、ビジョンは必 要。具体的な内容を欲しがっているので短期の具体的なロードマップと希望のある施策が必要。夢のある 産業の誘致に向かい、県、国会議員、市町村が一致団結し政府に要求し早期決断を迫るべき。	
総論	除染モデル事業の結果を待って計画を作りたい。	
総論	高台移転は戻る人のための施策なので戻らない人のための施策もしっかりしてほしい(新地町では坪1万 だと聞きましたが…)	
総論	復旧には土木(短期)、復興には大きな企業(長期)が必要。	
総論	原発事故が起こった浪江町は、何よりも環境回復が最優先の課題になります。生活圈、農地、森林などの 徹底した除染により、放射線量の低減化を図り美しく豊かな浪江町の回復を一日も早く目指してほしい。	
総論	復興計画の推進のためには、県はもちろん市町村、NPOや地域活動団体等の民間団体など多様な主体が 役割分担をしながら協力していくことが必要です。原発事故の収束状況、避難区域の変更や進行管理の結 果などを踏まえ、柔軟に計画の見直しを行いながら取り組みを進めてほしい。	
総論	浪江町役場の3.11の震災後の行動は分かりますが、今後のために震災時の在り方について検証して防災 マニュアル等の見直しが必要ではないか。	
総論	EPZ協定を無視した今回の国、東電、県の対応を許すことはできない。今後はこのことを全面的に持ち出し て、復興事業をやるにしても賠償問題を勝ち取るためにも有効手段として使うべきだ。私の知りうる限りの 町民は皆思っています。	

分野・ 該当ページ	内容	該当部分
総論	復興ビジョンの策定期が国による新たな避難指示区域の見直しや除染工程表など町の将来を左右するような重要事案の検討時期と重なったことから、今回検討状況の中間報告といったかたちになったことはやむを得ないと思われる。そこでP4の「復興ビジョンと復興計画の位置付け」にあるようにビジョンと計画に共通部分が生じることからP13以降の「短期における取組」に来年度予定されている事業を具体的に記載することで対応すべきと考える。	
総論	<ul style="list-style-type: none"> ・震災前の町では、人口減少と人口構成の変化(年少・稼働人口減、高齢人口増)があり、将来推計においてさらに深刻な人口構造の劣化が予測され、その負の影響は各方面に及び、暮らしと地域経営の重大課題となっていた。 ・当災害は町の全分野に壊滅的な被害をもたらしたが、最も深刻なのは町民の広域離散とコミュニティの崩壊。これにより町の人口推計は何十年も先取りし現実のものとして眼前に提起されている。 <p>以上より、これまでの計画策定の手法とは次元を異にする厳しく斬新な取組が求められ、復興ビジョン・計画の基盤はまずここからスタートすることが要求される。</p>	
総論	<ul style="list-style-type: none"> ・中間報告では復興の主役が町民で協働が基盤であることをあげているが、弱体化が予測される地域社会でこれを担い遂行することが果たしてできるのか。実行部隊やリーダー層が減少・高齢化し世代断絶が生じた状況下でどうコミュニティは運営できるか。 ・避難者への偏見や差別、風評が町に固定化し、世代を超えて長期化することで結婚や就職、その他社会生活上の暮らしの圧迫要因となる懸念がある。 ・当災害の記憶が急速に風化していくなかで、復興には長期の支援(国・県・一般社会)が必要とされ、ふるさとなみえが扶養コミュニティと化し主体性、独立の気概を失った更なる弱者へと向かうことが懸念される。 <p>以上より、ビジョンにはふるさとなみえの再生が如何に荆の道であるか、郷愁や夢、希望だけでは達成できないことが冷厳に盛り込まれるべき。町民にありのままの事実、長い闘いへの要請、覚悟を提起すべきと考えます。</p>	
総論	<ul style="list-style-type: none"> ・無限とも言える課題を超えふるさとなみえの再生は為し得るのか。巨大な限界集落となる懸念は払しょくできない。方向を異にした別なるベストがあるのではないか。 ・その上に立ってビジョンは、住民の最大幸福、多様な選択を可能とすることに特化すべきではないのか、起こるであろう状況変化や推移に対応可能な指針、国県に対する独立性と主張を堅持したビジョンを思考すべきではないだろうか。 	
総論	<p>避難住民に対して、現居住地と浪江町の「二重住民登録」を可能とする特別措置を強力に要請してはどうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・避難が長引くにつれ、避難先自治体との連携では対処することが適切ではない事柄が増加してくる。戻らない町民にとってふるさとなみえと繋がりあう大きな手段となる。 ・どのような形になろうとも自治体としての浪江町を維持し、多数の住民を要することで国県への要請・支援を確保し一人ひとりの復興に寄り添い連帯するうえでのきわめて有効な手法となりうる。 ・場合によっては我が国の制度上類例を見ない新たなまちの建設をも選択肢に入れられる。ビジョンの視野、可能性が一気に拡大されよう。 	
感想	委員会検討したとおり丁寧な説明になっていて良いと思った。町としてのコンセプトは十分できたと思う(一人ひとりの安心した暮らし、というところ)。	
感想	町民の早く浪江に帰りたいという声に何とかならないだろうかと思えます。	
感想	帰町の見通しが見つからない中での中間報告であり、町民に戸惑いを与えないか心配です。	

分野・ 該当ページ	内容	該当部分
感想	良い中間報告と思う。ビジョンの位置付けなど全体的に筋道がはっきりしわかり易い。特に子どもたちへのメッセージは大変良く印象深く感じました。	
感想	子どもたちへのメッセージを入れたのはとても良いと思います。内容も素晴らしいです。子どもたちの帰りたい気持ちを大切にしていかなければいけないと思います。	
3	「○政府方針の遅れ」という項目追加 ビジョンの作成から実現可能な復興計画までの道筋は、国の支援が不可欠なので、政府方針の遅れの原因を明確にしその解決策を外に向かって発信し続けることでビジョンの実現を担保する。原因と対策追求にあっては関係者(東電、県、町、国会議員等)の取り組みについての課題も盛り込むべきではないか。とにかく世の中に対しどういうことを発信するかが重要。	1)策定の背景
4	「今後・踏まえ、今後・踏まえ」の繰り返し表現の見直し	3)の最後の段落
5	「国(or政府)10km以内の住民に避難指示」など主体を明確にすべき。	4)の下線部
6	○すべてを奪った「地震津波と」原発事故のつらさ ○奪われた日々の平和「な暮らし」・・・「」の加筆	5)
8、9	復興の理念と基本方針は表現もほぼ同じくどい印象。一緒にして「復興の理念・基本方針」としたほうが町民の皆さんからも理解が得やすいのでは。また、「みんなでもに乗り越える」は理念としては理解できるが「みんなで力を合わせ災害を克服」については基本方針としてはいかなものか。そこにぶら下がる具体的な施策がないため、それ以降のページには記載が全くない。	
10	「緊急復旧機」→「期」	矢印の図形内
11	長期ビジョンに再生可能エネルギーに関する産業が記載されているが、今産業に必ず着手するという内容を短期ビジョンに記載すべきである。産業の必要十分条件は、 ①復興のシンボルとしなければならない ②工場は線量が気にならないレベルの所に建設する ③雇用を創出するために裾野の広い産業でなければならない ④全国から若い人が来るような産業でなければならない	短期ビジョン
11	「、安心して福島県・・・」の福島県が唐突な感じ。「浪江町」でいいのでは	⑦
11	「魅力的な学習機会を充実・・・」。魅力的な学習とは何か。中期ビジョンP23のように具体的に項目をあげてはどうか。	⑦
13	「医療費対応のための法制化」が意味不明。例えば「医療費(負担)軽減のための法制化」などとわかりやすくすべき。	①*甲状腺・・・
13	帰還するまでの健康管理、特に一人暮らしや高齢者について言及してはどうか。	①
14	「孤立防止」のあとに「緊急時の安全対策」を加えてはどうか。	④*仮設住宅入居の・・・
15	避難先でも浪江で受けていたような医療・介護・障がい福祉サービスが受けられるようにする旨を記載してほしい。	⑤*避難先自治体・・・
15	これまで意見が出され議論した「自治会が集まれる場所、集会やスポーツができる交流集会拠点の整備」は書き込めないのでしょうか。	⑥
15、19	放射線量が低い地域の墓地の修復を図ることを追加できないか。先祖代々が眠る墓地に畏敬の念を持ちさらに絆を強くして守っていくことが生きていくものの使命ではないか。	1)⑥or2)③
16	「、安心して福島県・・・」の福島県が唐突な感じ。「浪江町」でいいのでは。	⑦*県内の除染・・・
19	「、美しいふるさと・・・。」を「四季おりおりの自然に触れる体験を通し、ふるさとの美しさを実感しその良さを維持していきます。」に修正。	③*美しいふるさと・・・

分野・ 該当ページ	内容	該当部分
21	「一部漁業の操業再開を実現します」とありますが、漁業の水産物にも安全性が必要ではないでしょうか。	①*漁業インフラ..
21	農作物だけではなく全ての食に関する産物の安全性を発信すべきでは。	①*風評被害対策..
21	「津波被害地域」は「被災」のほうが適切では。	①*農業インフラ..
23	法規定の弾力化を求める「特区申請」よりも浪江町の状況に見合った通例以上の特別な支援を求めて学習支援に結び付けるほうが現実的と考えます。よって「内閣府への教育特区申請」を「国等への支援特別措置の積極的活用」に修正することを提案します。	④*内閣府への教育..
23	町外に住まうなみえっ子への学習支援の継続に関し、実際は経済的支援が中心になるものと考えます。この点を踏まえ具体的記述の部分を「短期から引き続き、全国どこにいてもなみえっ子の学習機会が阻害されないよう、経済的支援等の充実と継続に取り組んでいきます。」とするのがベターと考え提案します。	④*町外に住まう..
24	常磐自動車道などが早急に復旧するよとの記載があるが「早急に全線開通するよう」とすべき。	②*広域交通..
25	このページのどこかに「避難生活の終了」と入れてはどうか。	長期ビジョン
25	「町内の主要施設が完全に復旧し」、「施設等が誘致・建設され」の表現は主体性が感じられず、前後の項目の表現とも整合しない。「施設を..復旧し」、「施設等を誘致・建設し」とすべき。	2)②、③
27	記念館は作るべきだ。後世のためにも世界のためにも人類のためにも。国、東電の浪江町に対する裏切り行為も示すべきだ。我々町民を犬や猫同然と思っていたのだからもっと怒って進むべき。	③*観光施設の復旧..
31	・「将来のなみえを担う子どもたちへ」で良いのでは ・「新しい学校になじめない」→「新しい土地での学校生活」 ・「再開」→「再会」 ・「今を精一杯生きてゆきましょう」→「前を向いて歩いていきましょう」 (子どもたちはすでに精一杯生きていますので...)	子どもたちへのメッセージ
全体構成	下線による強調より色付けのほうが目立つ。	
全体構成	印刷の色は寒色系より暖色系のほうが印象が良いのでは。	
全体構成	町のことを知りたくて資料を読みたくても「字が小さくて読むのが容易でない」、「横文字は意味がわからない」という声がある。	